

令和6年度 小平市立小平第五小学校 学校評価報告書									
学校教育目標　すすんで学び　元気で　思いやりのある子									
目指す学校像(ビジョン)									
【目指す学校像】　　一人一人が大切にされ、地域とともに笑顔輝く学校									
【目指す児童・生徒像】 何事にも本気で取り組むこども									
【目指す教員像】　「教えるプロ」としての自信をもち、使命感をもって教育に取り組む教師　（　分かる授業　考える授業　ともにつくる授業　）									
前年度までの学校経営上の成果と課題									
成果:主任教諭による積極的な公開授業を通して、全教員の授業力向上への気運が高まった。漢字学習について、必達目標を意識して取り組んだ。									
課題:個別の学習支援が十分にできなかったため、宿題の出し方・学習者用端末の活用の見直しを図る。									
	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策	
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標			
学力向上	・学習者用端末等を日常的に活用し、どの児童も自分の考えを論理的に分かりやすく伝えられるように指導する。	3	3	・主任教諭は自分の授業公開を積極的に周知するなど互いに授業力を向上し合う風土はある。 ・3年生以上は学習者用端末を活用した授業が展開できている。学習者用端末を活用して自分の考えを伝えていく学習を進めていく。	4	4	・低学年でも学習者用端末を使って授業をしているのに時代の流れを感じた。 ・研究発表会の授業は世界の課題を探究する上で、とても意味のある内容であった。	・主任教諭以上は個々の専門性や授業テクニックを若手教員等に伝えるOJT研修を会議のない日を活用して行った。若手以外の教員も意欲的に参加した。 ・学習者用端末について、後半になると1年生も学習ドリルを活用できるようになった。今年度は生活科や総合的な学習の時間でも十分活用できた。	
	・学年毎に学びの「必達目標」を設定する。 ・復習プリントや学習者用端末のドリル等を授業や補習で継続的に取り組む。	3	3	・各教科の必達目標を意識した授業を日々行っている。 ・個別の基礎的・基本的な学力の定着を図るために、休み時間や放課後の個別対応や学習者用端末の活用を進めたい。	4	4	・漢字については、必達目標を意識して取り組んだことや自主学習の成果が表れ、テスト結果が伸びた学級が多い。 ・学習支援を個別に必要とする児童に対する指導が十分でなかった。宿題の出し方の見直しなどをしたい。		
健全育成	・学期に1回のあいさつ運動を実施する。 ・毎朝、教室や昇降口で児童を迎え、教職員から笑顔であいさつをする。	3	3	・自ら挨拶する児童が増えてきた。あいさつ運動の振り返りを生かしていく。 ・昇降口では専科教員が必ず立って児童を迎えている。学級担任は8時10分に教室で児童を迎えることは十分でないため、個別に促していく。	4	3	・いじめ問題は初期対応が大切だ。学校と家庭が同じ方向で対応することが大事だと思う。 ・学校で出会うと、自分から挨拶をする児童が増えてきたと感じる。	・学校全体では、すすんで挨拶できる児童は増えている。外部の方からも褒めていただく機会が多い。引き続き、児童主体・教員主体の両面からの取組を行っていく。 ・毎日児童を教室で迎えている学級担任は個人差があるため、年度初めに意識向上を図る。	
	・いじめ対策委員会を定期的に行い、状況把握と組織的な対応を進める。 ・教職員一人一人がいじめを許さない態度で指導する。	3	3	・「学校いじめ防止基本方針」について、4月の保護者会で周知した。生活指導上の問題に対しては担任・学年・副担任・生活指導主任・管理職が連携し、組織対応をしている。 ・児童アンケートの「いじめがないように気を付けた」ことに否定的な児童がわずかでもいることを重く受け止め、意識を高めていく必要がある。	4	4		・学級の問題であってもチーム学年・チーム学校で対応する組織対応の体制が整ってきた。 ・教員主体のいじめ防止研修は引き続き確実に実施し、いじめ防止への意識を高め続ける。	
体力向上	・体力向上についての運動例を作成し、全校で実施する。 ・「朝の運動」に積極的に参加することを促していく。	3	2	・休み時間の外遊びについて、4年生以上の児童はあまり積極性が見られない。 ・「朝トレ」は参加する児童が増えてきた。	3	3	・「朝トレ」を見守っているが、周りで見てだけの児童は昨年度より減ってきた。	・昨年度から取り組んでいる「朝トレ」を週1回実施し、児童への意識向上を促したが、運動委員会担当教員の負担が増えているため、対策を考えたい。	
業務改善 革・働き方改	・週当たりの在校時間60時間を超えないようにする。	3	2	・年度初めは事務的作業が多く、全体的に在校時間を超過してしまう傾向にあるのは変わらない。	3	3	・教員の業務改善は本人や学校だけではできないこと。国や都も本気で取り組んでほしい。 ・先生方が倒れないように支援できることややりたい。	・学期末等、業務が増えてしまう時期は授業時数を削減することで時間を確保した。 ・個人の仕事量や家庭状況により遅くなる教員と定時で帰る教員との差がある。	
	・会議の精査や学校行事の精選、ライフワークバランスなどについて、自己申告書に具体的な目標を示して取り組む。	3	2	・個々のライフワークバランスを自己申告書に明記し、管理職が確認した。	3	3		・小さな子供がいたり通院したりする教員は時差勤務を活用させている。 ・チーム学年のシステムをスムーズに運営するためにも、副担任が担任業務を分担し、担任の軽減につなげられるようにしたい。	